



- Kofu City Press Release -

感染性胃腸炎の集団発生について

市内の保育施設において、胃腸炎症状を呈する者が複数発生しましたので、調査・指導を行いました。その概要は次のとおりです。
ノロウイルスなどを原因とする感染性胃腸炎が流行する時期となりましたので、注意喚起のため情報提供します。

概要

- 発生年月日 10月28日（火）～11月2日（日）
- 発症者の状況 29名（園児24名、職員5名）
- 主な症状 おう吐、下痢
- 検便検査 発症者のうち検体の提出があった3名を検査したところ3名からノロウイルス検出
- 指導内容 施設内でノロウイルスの集団感染が発生したと判断し、二次感染防止の指導を実施しました。

- ※ 甲府市では、毎シーズン(9月から翌年8月)初めての集団発生事例を公表しています(昨シーズンの公表は令和7年2月21日でした)。
- ※ 今後、市内において感染性胃腸炎の集団発生または臨時休業措置があった場合は、月曜日から日曜日分をまとめて翌週木曜日に甲府市ホームページでの情報提供とします。

感染性胃腸炎

1 感染性胃腸炎はどんな病気？

- ① 細菌またはウイルスなどによる、おう吐、下痢を主症状とする感染症です。
- ② 原因はウイルス（ノロウイルス、ロタウイルスなど）によるものが多く、一年を通して発生しますが、毎年秋から冬にかけて流行します。
- ③ 感染症法では定点把握対象の五類感染症に分類され、指定届出機関より週ごとに保健所に届出がされることになっています。

2 どんな症状があるの？

- ① ノロウイルスの潜伏期間は 1～2 日程度です。主な症状は、発熱、おう吐、下痢、腹痛で、1～2 日程度でおさまります。しかし、感染から 1 か月ほど便にウイルスが残っている場合があります。感染力が強いことから集団感染や食中毒に対する注意が必要です。
- ② 子どもや高齢者は重症化することもあり、おう吐物を誤って気道に詰まらせて死亡することがありますので注意が必要です。

3 どうやって感染するの？

- ① 経口感染：病原体が付着した手で口に触れて感染する場合や、汚染された食品を食べることで感染します。また、飛散したウイルスを吸い込み、感染することがあります。

4 治療方法と予防策は？

- ① 対症療法が中心となるため、水分と栄養の補給を十分に行いましょう。
- ② 脱水症状がひどい場合には早めに医療機関を受診しましょう。
- ③ 手洗いをし、タオルの共用は避けましょう。（特に、調理の前、食事の前、トイレの後にはしっかり手洗いをする）
- ④ 調理の際は、中心部までしっかり火を通し、調理器具類の洗浄・消毒をしっかりと行いましょう。※症状のある方は食品を直接取り扱う作業をしないようにしましょう。
- ⑤ 患者のおう吐物や便には大量のウイルスが含まれていますので、二次感染を防ぐため、おう吐物やオムツなどの取り扱いには十分注意しましょう。

5 おう吐物の処理方法は？

- ① 窓を開けるなどして換気をしながら行いましょう。
- ② おう吐物は使い捨てのエプロン（ガウン）、手袋、マスクを着用して処理しましょう。
- ③ おう吐物を使い捨てのペーパータオルなどで、外側から内側に向けて静かに拭き取り、ビニール袋に捨てます。
- ④ おう吐物の付着していた部分とその周囲は、0.1%次亜塩素酸ナトリウムをペーパータオルなどにしみこませたもので覆い浸すように拭き取り、ビニール袋に入れます。
- ⑤ ビニール袋に 0.1%次亜塩素酸ナトリウムを中の物にしみこむ程度に入れて、口をしっかりとしばります。
- ⑥ 処理後はしっかりと手洗いをしましょう。